

千綿っ子だより

ちからを合わせて
わらい声あふれる
たのしい学校



秋を知らせる彼岸花

やっと秋めいてきました。「やっと」という表現がぴったりの昨今の気象状況ですが、おそらく、秋はあっという間に過ぎ去っていくのでしょう。「〇〇の秋」で表現されることが多い秋ですが、皆さんは、どのようなところで秋を感じますか。

私は、田んぼの土手に列をなして咲く彼岸花を見ると、「秋がやってきたな」と感じます。今、学校の正面玄関近くにも、彼岸花が咲いています。真っ白の彼岸花が、千綿小に秋を知らせてくれています。茎がまっすぐ伸びた彼岸花は、とても凛としていて美しいのですが、少しの力で茎が折れてしまいそうな、か弱さも感じます。定番は赤色ですが、千綿小の彼岸花は白色。ピンク色の彼岸花もあるそうですので、見付けてみたいと思っています。次は、秋の深まりとともに、きんもくせいの香りが漂い始めるのでしょうね。



学びの充実



1年生

千綿小学校では、教師の授業力を高めるために、全職員で授業研究を行っています。先日、1年生と2年生の学級で算数科の授業研究を行いました。

1年生は、3つの数の計算の仕方を算数ブロックを操作しながら筋道を立てて考える学習、一方、2年生は、様々な図形を辺や頂点に着目しながら、三角形や四角形などに弁別する学習でした。1年生も2年生も一生懸命に考える姿が見られ、成長を実感することができました。

本校の子供たちの「学びに向かう姿」はすばらしいものがあります。課題に対して、友達と協働しながら学びを深めることが得意です。今後もさらに、学ぶ楽しさを味あわせながら、自分の力を自分で伸ばしていくことができる力を育てていきたいと考えています。「できた、わかった」の声があふれる授業を目指します。

次の授業研究は、4年生です。さあ、どんな姿を見せてくれるか楽しみです。



2年生

